

令和 6 年 6 月 19 日現在

機関番号：41309

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2023

課題番号：17K12448

研究課題名（和文）訪問看護師の在宅看護実習指導能力向上支援アプリの開発

研究課題名（英文）Development of an app to support the improvement of home-based nursing practice guidance skills of visiting nurses

研究代表者

東海林 美幸（Tokairin, Miyuki）

仙台青葉学院短期大学・看護学科・講師

研究者番号：90735911

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,800,000円

研究成果の概要（和文）：訪問看護師の実習指導上の困難感に対応したICTによる在宅看護実習指導支援プログラムの開発とその有用性の評価を目的とした。在宅看護実習指導に従事する訪問看護師を対象としたインタビュー調査で訪問看護師の在宅看護実習指導上の困難13項目を明らかにし、13の困難場面と対応場面からなる支援プログラムを開発した。介入調査では訪問看護師は在宅看護実習指導上の困難感を抱えていることが明らかとなり、支援プログラムにより困難感の一部の得点は有意に低下した。支援プログラムのユーザー数は1000件を超え、介入後調査では継続使用希望者が7割となり支援プログラムへのニーズが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

訪問看護師の実習指導を支援する研修として、保健師助産師看護師実習指導者講習会があるが、通常の現任教育には学生の実習指導に関する研修が含まれない現状がある。さらに訪問看護事業所は全国に13003件開設され、山間部やへき地など広域に散在し、6割が中・小規模事業所、8割は24時間対応の勤務体制で、遠方での研修参加や事業所単独での研修整備は困難である。このような勤務実情に即した支援を実施するため、ICTを活用し、時間や場所を選ばずに学生の実習指導に関する自己学習、実習受け入れ準備、実習指導にも活用できる教育支援の整備が必要で、本研究より訪問看護師の実習指導上の困難感軽減にも繋がるものと考えられる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop an ICT-based home-based nursing training guidance support program that responds to the difficulties of home-visit nurse training guidance, and to evaluate its usefulness. We conducted an interview survey of visiting nurses engaged in home nursing training guidance, identified 13 difficulties in home nursing practice guidance for visiting nurses, and developed a support program consisting of 13 difficult situations and response situations. The intervention survey revealed that visiting nurses had difficulties in teaching home nursing practice, and some scores on difficulties were significantly reduced by the support program. The number of users of the support program was 1,094, and 70% of the respondents wanted to continue using the support program in the post-intervention survey, suggesting a need for the support program.

研究分野：在宅看護学

キーワード：訪問看護師 実習指導 困難感 実態調査 支援プログラム 介入研究

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

国内では2006年からeラーニング、2012年からモバイルアプリ開発に関する研究報告が行われており、内容は透析、国家試験対策、小児の家族支援、医療事故防止、感染看護教育などに関するものだった。海外では2008年から看護学生や臨床看護師・メンターの教育支援、救急・急性期看護、せん妄看護などのeラーニング、2015年から臨地実習、臨床看護アシスト、CNS教育などのモバイルアプリ開発の研究報告が存在し、テレヘルス(遠隔医療)に現任教育を組み入れて実施するという研究報告をはじめ、敷地面積が広大で多くの看護師が就業するという特徴に即した研究が多くみられた。訪問看護事業所は全国に9525か所、1事業所あたり常勤換算数6.7人の小規模事業所が多いことから研修受講の機会が限られている。通信自由化(1985年)以降、我が国のICT産業は、「電話の時代」から「インターネットと携帯電話の時代」、「ブロードバンドとスマートフォンの時代」へという時代変化を遂げている。ICT活用の特性・強みとして多様で大量の情報を収集、整理、分析、カスタマイズが容易であること、時間や空間を問わずに、音声・画像・データなどを蓄積・送受信できること、距離に関わりなく相互に情報の発信・受診のやり取りができるという、双方向性を有することが挙げられている。アクティブラーニング、個々の能力や特性に合わせた学び、遠隔教育に大きく貢献することが期待されていることより、ICTを活用した教育プログラムを構築する。また社会情勢や文献検討の結果、特定の目的に寄与するアプリ作成は審査を得にくく経費捻出も困難であることから、ポータルサイトを活用したシステム構築に切り替え、アプリと同様に利用者である訪問看護師がスマートフォン・タブレットで時間や場所を選ばずに支援を受けられるものとした。

2. 研究の目的

訪問看護師の実習指導上の困難感に対応したICTによる在宅看護実習指導支援プログラムの開発とその有用性の評価

3. 研究の方法

- (1)在宅看護実習で訪問看護師が感じる実習指導上の困難の解明(東海林、古瀬、森鍵、小林,2019)
在宅看護実習指導に従事する訪問看護師10名を対象に、訪問看護師の在宅看護実習指導の実態を明らかにすることを目的にインタビュー調査を実施した。
- (2)訪問看護師の在宅看護実習指導支援プログラムの作成(東海林、古瀬、小林,2023)
アプリよりも大容量の内容を搭載でき、パソコン、スマートフォン、タブレットで時間や場所を選ばずに使用可能なポータルサイトを用いた「訪問看護師の在宅看護実習指導支援プログラム(以下、支援プログラム)」を作成した。
- (3)支援プログラムの検証(東海林、古瀬、小林,2023)
全国の訪問看護師を対象としICTによる支援プログラムのWeb介入を行い、訪問看護師の実習指導に対する困難感の実態と介入による困難感の変化を確認した。

4. 研究成果

- (1)在宅看護実習で訪問看護師が感じる実習指導上の困難の解明(東海林、古瀬、森鍵、小林,2019)
訪問看護師は、世代間のギャップ、同行訪問への負担感、指導の難しさ、自分なりに行う指導への不安などの困難を抱えており、それに対し、学生を理解し支援する、学生にあわせた指導をする、指導に工夫をする、在宅療養環境に合わせた指導をする、利用者と学生をつなぐという対処をしていた。しかしながら自分なりに行う実習指導への不安については対処できていないことが明らかとなった。
- (2)訪問看護師の在宅看護実習指導支援プログラムの作成(東海林、古瀬、小林,2023)
支援プログラムは、訪問看護師の実習指導上の困難(東海林、古瀬、森鍵、小林,2019)で明らかにした「訪問マナーができない学生への指導」、「利用者・家族との会話が續かない学生への指導」、「利用者宅で生活様式の違いを感じる場面での指導」、「いまどきの若者への指導」、「実習指導に対する負担感への対処」、「利用者の負担に配慮した実習指導」、「学習状況が不明確なときの指導」、「学生の希望に合った実習設定」、「訪問看護についての指導が伝わらない」、「短時間での指導」、「やる気がない学生への指導」、「指導方法への不安」、「いまの時代に合わない指導への不安」からなる13の困難場面とその解決方法の例示で構成した。困難場面の解決方法の例示は、先行文献、図書、省庁HP等を参考に研究者が原案を作成、地域・在宅看護における有識者、訪問看護実践者の意見から修正をすることで妥当性を確保した。
- (3)支援プログラムの検証(東海林、古瀬、小林,2023)
訪問看護師の在宅看護実習指導に対する困難感は、「訪問マナーができない学生への指導」、「利用者・家族との会話が續かない学生への指導」、「利用者宅で生活様式の違いを感じる場面での指導」、「いまどきの若者への指導」、「実習指導に対する負担感への対処」、「利用者の負担に配慮した実習指導」、「学習状況が不明確なときの指導」、「学生の希望に合った実習設定」、「訪問看護についての指導が伝わらない」、「短時間での指導」、「やる気がない学生への指導」、「指導方法への不安」、「いまの時代に合わない指導への不安」とし、介入前・介入後の変化を確認した。

訪問看護師の実習指導上の困難感の実態

訪問看護師の実習指導上の困難感 13 項目について VAS(Visual Analog Scale)で測定した。訪問看護師の経験年数は 9.7 ± 7.7 年で、女性が 90.3% だった。職位は管理者 68.4%、主任 9.7%、スタッフ 21.1% だった。雇用形態は常勤 96.0% だった。教育的役割は教育担当者 34.0%、その他 12.6% だった。在宅看護実習指導に対する困難感の得点は、「やる気がない学生への指導」78 (50 - 92) (中央値 (四分位範囲))、「訪問看護についての指導が伝わらない」68 (50 - 83)、「訪問マナーができない学生への指導」68 (32 - 83)、「学習状況が不明確なときの指導」67 (50 - 82)、「短時間での指導」63 (50 - 79)、「学生の希望に合った実習設定」59 (50 - 71)、「実習指導に対する負担感への対応」50 (47 - 76)、「指導方法への不安」50 (45 - 76)、「利用者・家族との会話が續かない学生への指導」50 (28 - 76)、「いまどきの若者への指導」50 (29 - 73)、「今の時代に合わない指導ではという不安」50 (40 - 72)、「利用者の負担に配慮した実習指導」50 (31 - 70) だった。訪問看護師は在宅看護実習指導において教育機関からの情報不足、世代の異なる学生の理解、相互に関係性を構築することに困難を感じている可能性が示唆された。

訪問看護師の在宅看護実習指導上の困難感と自己効力感・職務経験との関連

訪問看護師の在宅看護実習指導上の困難感の実態と自己効力感・職務経験との関連を明らかにすることを目的とした。調査方法はウェブ調査による横断的研究で、全国の看護職員数 5 人以上の訪問看護事業所で実習指導に従事する訪問看護師を対象とした。筆者らの質的研究で明らかにした訪問看護師の在宅看護実習指導に対する困難感 13 項目と、自己効力感・職務経験との関連を Spearman の順位相関係数、Mann-Whitney の U 検定で確認した。訪問看護師は在宅看護実習指導上の困難感を抱えていた。困難感得点が高い項目は上位から「やる気がない学生への指導」、「学習状況が不明確なときの指導」、「訪問看護についての指導が伝わらない」、「訪問マナーができない学生への指導」、「短時間での指導」、「学生の希望に合った実習設定」だった。訪問看護師は、世代の異なる学生の理解や、短時間の実習で学生と相互に関係性を構築することなど、訪問看護師の経験や努力では解決できない項目で高まる可能性が考えられた。訪問看護師は在宅看護実習指導上の困難感、職務経験年数、自己効力感と正の相関が確認され、訪問看護師は職務経験、自己効力感により実習指導上の困難感に対応している可能性が考えられた。

支援プログラムの効果

介入後調査では 45 名を分析対象者とした。支援プログラム配信後の困難感得点は「指導方法への不安」で上昇したが、「いまどきの若者への指導」、「やる気がない学生への指導」で有意に低下した。訪問看護師は在宅看護実習指導において、世代の異なる学生の理解、相互に関係性を構築することに困難を感じていることが考えられた。支援プログラムのユーザー数は 1094 件、介入後調査では継続使用希望者が 7 割となり支援プログラムへのニーズが示唆された。

参考文献

1. 井上 誠、近藤 美也子、麻生 浩司 (2020) 初めて看護学生の訪問看護実習を受け入れた訪問看護師の実習指導前後の思い：日本精神科看護学術集会誌、62 (2)、39-43 .
2. 経済産業省 (2017) 人生 100 年時代を踏まえた社会人基礎力の見直しについて、https://www.cac.j-acd.org/application/files/4416/9853/3349/001_02_00.pdf
3. 木原雅子、加治正行、木原正博 (2018) 健康行動学：2、メディカル、サイエンス・インターナショナル、東京 .
4. 厚生労働省 (2007) 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書、<https://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>
5. 厚生労働省 (2015) 特定分野における保健師助産師看護師実習指導者講習会実施要綱、<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-10800000-Iseikyoku/0000194256.pdf>
6. 厚生労働省 (2017) 訪問看護：介護給付費分科会資料、https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000170290.pdf
7. 厚生労働省 (2018) 2040 年を見据えた社会保障改革の課題：第 111 回社会保障審議会医療保険部会資料、https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000204022.pdf
8. 厚生労働省 (2019) 看護職員確保策に関するこれまでの議論のまとめ：医療従事者の需給に関する検討会 看護職員需給分科会、<https://www.mhlw.go.jp/content/10801000/000522958.pdf>
9. 厚生労働省 (2020) 介護事業所生活関連情報検索 介護サービス情報公表システム、<https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>
10. LaKey, B., & Cassidy, P.B. (1990) Cognitive Processes in Perceived Social Support: Journal of Personality and Social Psychology、59(2)、337-343 .
11. Lazarus, R. S.: ストレスの心理学 (1991): 実務教育出版、7、257-259、東京 .
12. Malcom S. Knowles (2002) 成人教育の現代的実践 ベダゴジーからアンドラゴジーへ：堀薫夫・三輪 建二、鳳書房、4、東京 .
13. 松下恭子、多田敏子、岡久玲子 (2013) 看護学生に対する訪問看護師の実習指導の現状と指導についての意識：The Journal of Nursing Investigation、12 (1)、36-43 .
14. 壬生寿子、日當ひとみ (2017) 在宅看護の変遷からみる在宅看護教育の今後の課題：産業文化研究、26、49-61 .
15. 文部科学省 (2016) 教育の情報化について、https://www.mext.go.jp/component/a_menu/ed

- ucation/detail/_icsFiles/afieldfile/2016/04/08/1069516_03_1.pdf
16. 内閣府 (2018) 就労等に関する若者の意識：平成 30 年版 子供・若者白書、 <https://www8.cao.go.jp/youth/whitepaper/h30gaiyou/s0.html>
 17. 日本学術会議 社会学委員会 (2020) web 調査の課題に関する検討分科会提言 Web 調査の有効な学術的活用を目指して、 <https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-t292-3.pdf>
 18. 日本訪問看護財団 (2017) 平成 28 年度 訪問看護人材育成教育カリキュラムに関する検討委員会訪問看護人材養成基礎カリキュラム、 <https://www.jvnf.or.jp/home/wp-content/uploads/2017/05/kisokarikyuramu.pdf>
 19. 迫田智子、岡本 実千代 (2014) 実習指導者として訪問看護師が捉えた在宅看護論実習の現状と取り組み：日本看護学会論文集地域看護、44、188-191 .
 20. 東海林美幸、森鍵祐子、小林淳子 (2016) 訪問看護師の在宅看護実習指導における自己効力感と関連要因：北日本看護学会誌、18 (2)、17-29 .
 21. 東海林美幸、古瀬みどり、小林淳子 (2019) 在宅看護実習で訪問看護師が感じる実習指導上の困難とその対処：日本看護研究学会、42(4)、819-828 .
 22. 東海林美幸、古瀬みどり、小林淳子 (2021) 訪問看護師が在宅看護実習で心がけていること：北日本看護学会誌、24(1)、11-18 .
 23. 牛久保美津子、飯田苗恵、小笠原映子 (2015) 訪問看護ステーションにおける訪問看護実習受け入れに関する状況：北関東医学、65 (1)、45-52 .
 24. 山形県看護協会 (2013) 平成 24 年度山形県在宅推進モデル事業 県内訪問看護ステーションの質の向上と連携強化 県内訪問看護ステーション実態調査報告書：2013、3 24 .
 25. 全国訪問看護事業協会 (2021) 令和 3 年度訪問看護ステーション数調査結果、 <https://www.zenhokan.or.jp/wp-content/uploads/r3-research.pdf>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 東海林 美幸 , 古瀬 みどり , 小林 淳子	4. 巻 24
2. 論文標題 訪問看護師が在宅看護実習指導で心掛けていること	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 北日本看護学会誌	6. 最初と最後の頁 11-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東海林 美幸、古瀬 みどり、森鍵 祐子、小林 淳子	4. 巻 42
2. 論文標題 在宅看護実習で訪問看護師が感じる実習指導上の困難とその対処	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本看護研究学会雑誌	6. 最初と最後の頁 819-828
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15065/jjsnr.20190523056	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 東海林 美幸 , 古瀬 みどり , 小林 淳子	4. 巻 12
2. 論文標題 ICTによる在宅看護実習指導支援プログラムの有用性の評価 訪問看護師の実習指導上の困難感への対応	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 日本在宅看護学会誌	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計10件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 3件）

1. 発表者名 Miyuki.Tokairin, Midori.Furuse, Atsuko.Kobayashi
2. 発表標題 Relationship Between Difficulties in Home-Based Nursing Training Guidance and the Position, Educational Role, and Training Guidance Experience of Visiting Nurses
3. 学会等名 The 7th International Nursing Research Conference of World Academy of Nursing Science (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Miyuki.Tokairin,Midori.Furuse,Atsuko.Kobayashi
2. 発表標題 The actual condition of visiting nurses' perceived difficulties in home-based nursing care practical training
3. 学会等名 25th East Asian Forum of Nursing Scholars Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 鈴木愛・齋藤千香子・伊藤満生・矢ノ目昭子・東海林美幸・古瀬みどり
2. 発表標題 B市における訪問系介護保険サービス事業所の災害への備えの現状と課題
3. 学会等名 第51回日本看護学会在宅看護学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 矢ノ目昭子・齋藤千香子・伊藤満生・鈴木愛・東海林美幸・古瀬みどり
2. 発表標題 B市における訪問系介護保険サービス事業所職員の想定する災害リスクと課題 - 利用者・家族のもつ力に焦点をあてて -
3. 学会等名 第51回日本看護学会在宅看護学術集会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 古瀬 みどり、東海林 美幸
2. 発表標題 訪問看護師が捉えたアドバンス・ケア・プランニング 良かったと感じた事例と困難と感じた事例の比較より
3. 学会等名 Palliative Care Research
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Miyuki, tokairin・Midori, furuse
2. 発表標題 Visiting nurse's Perceived Difficulties and Corresponding Measure in Providing Practical Guidance During Home-based Nursing Care Practical Training
3. 学会等名 International Family Nuesing Association14th (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 東海林美幸・古瀬みどり
2. 発表標題 訪問看護師が在宅看護実習指導で感じる困難と行動 居宅における指導方法の一考察
3. 学会等名 日本家族看護学会・第25回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 古瀬みどり・東海林美幸
2. 発表標題 A県訪問看護ステーションに勤務する看護師のアドバンス・ケア・プランニングに対する認識
3. 学会等名 日本家族看護学会・第25回学術集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 東海林美幸・古瀬みどり
2. 発表標題 進行がん患者の家族のQOLに関する文献検討
3. 学会等名 第24回日本家族看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 古瀬みどり・東海林美幸
2. 発表標題 在宅ケア領域におけるアドバンス・ケア・プランニングに関する文献検討
3. 学会等名 第24回日本家族看護学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小林 淳子 (Kobayashi Atsuko) (30250806)	仙台青葉学院短期大学・看護学科・教授 (41309)	
研究分担者	古瀬 みどり (Furuse Midori) (30302251)	山形大学・医学部・教授 (11501)	
研究分担者	鈴木 達哉 (Suzuki Tatsuya) (10727514)	山形大学・学内共同利用施設等・講師 (11501)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------